

研究室紹介 水圏環境部

私たちは、こんな研究をしています！

部長：安江 浩・副主任研究員：相田 聡、工藤 孝也
研究員：高辻 英之、川口 修

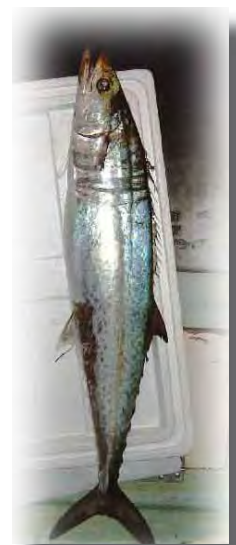


赤潮や貝毒の発生時期には、監視を強化して、プランクトンの動向を関係者に伝達するほか、赤潮や貝毒に起因する被害を未然に防止する技術の開発を行っています。水圏環境部では、漁業生産の基礎となる漁場の環境を調査船を使用して定期的にモニターをしています。



資源回復のための計画づくりを支援しています。

水産資源は上手に利用すれば、永久に受け取ることができる海の恵みです。しかし、資源量は海洋環境によって変化したり、獲り過ぎによって枯渇します。このため、カタクチイワシやヒラメなどの重要な魚種について調査を行い、減少しているものについては資源回復を図る必要があります。



アマモ場の造成技術やアサリの移植放流技術の開発に取り組んでいます。

近年、藻場や干潟は多様な生物を育てる場であり、水質を浄化する機能もあることが注目されています。広島県では戦後に多くの藻場や干潟が失われており、このような大切な機能を回復させることは重要な課題です。このため、潮の干満や波浪が再現できる施設を整備しました。



天然遡上アユの回復させる研究を進めています。河川や湖沼は生物生産の場として、また、海との繋がりが物質循環の面からも重要であることが再認識されています。このため、海・川を一体化した試験研究に取り組んでいます。

